

## RETAILER ACADEMY NEWS

Jul 2017 | Bentley Motors Japan

STUDY TOUR

セールススタッフが見た英国ベントレー

## グッドウッドとクルー工場を視察

ベントレー モーターズ ジャパンは6月30日～7月4日の5日間、全国のリテーラーのセールススタッフを対象にした研修旅行を実施しました。グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードとクルー工場を視察したセールススタッフが、英国で感じたことをご紹介します。

## —— ベントレー東京 増田様

グッドウッドでは各国の名車が一堂に会し、大変な賑わいを見せていました。コースを走り抜ける Duo Tone の Supersports は抜群の存在感を放っていました。クルーではステアリングを製造する方のお話を拝聴し、時間をかけ丁寧にレザーを張ったり、手縫いでステッチ加工をしたり、仕事に対し誇りを持っていることが窺えました。

## —— ベントレー東京 吉田様

華麗な英国モータースポーツの歴史の奥深さと、ベントレーの創業当時から徹底して良い製品を作ろうとするこだわりを再認識できました。グッドウッドは今回が初めてで、ベントレーを扱う者としてこの経験は自分の見聞を広める良い機会になりました。今回の体験をセールスプロモーションに活かし、お客様と説得力のある会話ができるよう、さらに自分に磨きをかけて努力していきます。

## —— ベントレー大阪 田中様

クルー工場は2回目の訪問で、実際にペンティガのラインを拝見できてよかったです。以前は建設中だった新CIのショールームも見ることができたのもとてもよかったです。グッドウッドは初めて訪れましたが、規模の大きさ、日本では絶対にできない内容だけに、写真や動画を撮影し記録として残しておきます。今回経験したことをお客様に興味を持っていただけるよう、伝えていきたいです。

## 主な旅程

6月30日	羽田発の日本航空43便にてロンドンへ
7月1日	ロンドンからバスにてグッドウッドへ ベントレーブース訪問 (ヒルクライム観戦ほか)
7月2日	ロンドンからバスにてクルーへ
7月3日	クルー工場視察、Mullinerプレゼンテーション 日本航空44便にて羽田へ出発
7月4日	羽田着、帰国

## —— ベントレー東京 鈴木様

いずれの日程においても全てベントレーの歴史に触れることのできる旅となりました。ベントレー好きにはたまらないものであり、終始、私にとって非常に有意義な時間でした。この貴重な経験を今後の営業活動に活かしていきます。



## —— ベントレー神戸 服部様

クルー工場を訪れたのは2回目でしたが、相変わらず工場とは思えないきれいな、静かさと、レザーやウッドなど素材の香りを感じました。お客様に価値を伝えるなかで非常に勉強になりました。グッドウッドでは、雑誌やウェブでしか見たことのない車両ばかりで、ヨーロッパの自動車文化に触れることができました。

## —— ベントレー広島 棚橋様

グッドウッドでは、クルマに対する楽しみ方、楽しませ方が日本では体験したことのないものでした。希少・貴重なクラシックカー等の展示エリアを柵も警備もなく自由に散策できることが特に印象に残りました。もちろん勝手に触る人はいませんし、日本ではあり得ないことだと思います。クルマに対する想いや歴史が違うのだと実感しました。

## —— ベントレー東京 大山様

この研修旅行で1度に昔の車両から現代の車両、そしてGTカーまで見ることができ、さらにベントレーの歴史とその文化に触れることができたのはとても嬉しく思います。また、イギリスのイメージでカラフルなベントレーが多いと想像していましたが、意外にも黒、グレー系が多かったです。

## —— ベントレー大阪 山本様

グッドウッドでは、日本では見ないようなクルマ、コンセプトカー、レーシングカーなどが走行するのを見られるので、クルマ好きにはたまらないものがあります。ぜひ皆さんが体験すべきだと思います。前回クルー工場を訪れたときはペンティガのラインがなかった頃で、工場の中の雰囲気は変わっていましたが、クラフトマンシップの世界は変わらず存在しており、安心感に変わりました。

## —— ベントレー広島 平野様

グッドウッド・フェスティバルを通し、イギリスの自動車文化の懐の深さに心底圧倒された次第です。クルー工場は思っていたよりコンパクトでしたが、むしろそれが機能的だと感じました。ロンドンを発つ日の朝、市内を1時間程散策しました。ベントレー(中にはSタイプも!)がいたる所に路上駐車されており、驚嘆しました。





## 新世代レクサスのフラッグシップクーペ Lexus LC

**今** 年3月16日に発売されたレクサスLCは、2012年のデトロイト・モーターショーで発表されたデザインコンセプトカー「LF-LC」のデザインを市販化したフラッグシップクーペです。その価格は1,300万円から1,450万円で、日本車としては日産 GT-Rと並ぶ1,000万円台クラスのスポーツクーペとなります。

現在、レクサスのクーペモデルには500～600万円クラスのRCがありますが、上級セグメントのLCは1,000万円台半ばの輸入スポーツカーと競合する存在です。それを端的に表しているのがレクサスの公式サイト。LCの比較対象として、ボルシェ 911、メルセデス AMG GT、ジャガー FタイプR、マセラティ・グラントウーリズモが挙げられています。2009年に3,750万円という価格で限定販売されたスーパースポーツのLFAを除けば、レクサスにとって初の本格ラグジュアリークーペといえます。



### プラットフォーム

前述のように、LCはコンセプトカーの「LF-LC」の市販モデルといえる存在です。しかし、「LF-LC」は量産化を予定していなかったため、市販化にあたりFRプラットフォームを新開発しています。デザインと走りの良さを両立するためフロントミッドシップレイアウトを採用。エンジンを車軸の後方かつ低い位置に搭載しています。高剛性を追求したボディは、重心位置の高いルーフと車両重心から遠い部材にアルミやCFRPなどの軽量素材を使用。さらに補機バッテリーをラゲッジルームの下に配置することにより前後重量配分を最適化。重心高と慣性モーメントの低減を実現しています。

### シャシー

素性の良いステアリング特性を実現するため、サスペンションも新開発されています。サスペンション形式は前後ともにマルチリンク式。フロントはダブルジョイント式アッパーアームを採用し、アームを低い位置に配置しました。これにより21インチタイヤの装着とコンセプトカー譲りの低いエンジンフードを実現しています。



フロントのハイマウントマルチリンクサスペンション

### 個性の異なるパワーユニット

LCには2種類の対照的なパワーユニットが用意されています。

まずLC500hには、世界初となるマルチステージハイブリッドシステムを搭載。これはハイブリッドシステムに有段ギアを組み合わせたもので、3.5L V6エンジンと走行用モーター両方の出力制御が可能になりました。これによりハイブリッドシステム全体の駆動力が増加しています。また、10段の変速制御により、エンジン回転と加速感がマッチしたダイレクトな走りを実現。ハイブリッドの常識を超えた先進的なスポーツドライブが楽しめます。



LC500hのマルチステージハイブリッドシステムは、システム最高出力359psを発揮

もう一方のLC500には、RC Fなどに搭載されて定評のある5.0L V8エンジンを搭載。大排気量・自然吸気エンジンならではの伸びのあるトルク感とレスポンスの良さが特徴で、10速ATとの組み合わせによりキレの良い走りを実現しています。さらに吸気サウンドジェネレーターと排気切り替えバルブにより、LFAのスポーティで高揚感のあるサウンドテイストを踏襲していることも特徴です。



左がハイブリッドシステム搭載のLC500hで、右が5.0L V8エンジンを搭載するLC500。LC500の最高出力は477ps・最大トルクは540Nmを発揮する

### エクステリア

新設計のプラットフォームにより可能になった低重心ボディは、低いフードとダイナミックな形状のスピンダルグリルにより、精悍でエレガントな表情を演出。リアビューではスピンダルグリルを想起させる造形と、縦基調のターンシグナルランプを組み込んだ3方向のフルLEDリアコンビネーションランプなどにより、重心の低さとワイド感を強調しています。



### インテリア

インテリアでは、ドライビングに集中できる機能的なコックピット空間と、パッセンジャーを包み込むおもてなしの助手席側空間を融合。先進的な機能性と高品質な素材感、それに大胆な色使いのインテリアカラーを新たに設定することで、独自のラグジュアリー性を表現しています。



「フリージブルー」と呼ばれるインテリアカラーは、ブルー、ホワイト、オレンジを組み合わせた大胆な色使いが特徴

### 販売状況

発売から1ヶ月間で約1,800台の受注があったというレクサスLC。その内訳はLC500hが約800台、LC500が約1,000台で、5.0L V8エンジン搭載車の方がやや人気が高い状況です。実力派揃いの輸入スポーツカーに対して今後も勢いを維持できるかが注目されます。

#### ■ 価格(税込)

LC500: 13,000,000円～14,000,000円

LC500h: 13,500,000円～14,500,000円



COMPETITORS INFORMATION



ニューモデル	ランボルギーニ・ウラカン ペルフォルマンテ
発表・発売日	2017年6月8日 発表
概要	・ 軽量で高剛性なフォードコンポジットを多用し、車重を40kg軽量化 ・ 5.2L V10エンジンは30psアップの640psを発揮 ・ 0-100km/h加速は2.9秒、最高速度は325km/h以上
車両価格(税込)	ウラカン ペルフォルマンテ：34,169,904円
デリバリー開始時期	2017年夏以降



ニューモデル	フェラーリ 812 スーパーファスト
発表・発売日	2017年5月23日 発表
概要	・ 6.5L V12エンジンはフェラーリ量産車としては史上最強となる最高出力800psを発揮 ・ 進化したエアロダイナミクスによりダウンフォースを増加 ・ 電動パワーステアリングと後輪操舵による優れたハンドリング
車両価格(税込)	フェラーリ 812 スーパーファスト：39,100,000円
デリバリー開始時期	－



特別仕様車	マセラティ・ギブリ スカテナート
発表・発売日	2017年6月6日 受注受付開始
概要	・ 1957年のマセラティ F1初制覇60周年を記念した世界限定60台の特別仕様車 ・ F1で使用されるピレリ P ZEROと同様のカラード タイヤを装着 ・ ベースモデルはガソリンエンジンのギブリ
車両価格(税込)	ギブリ スカテナート：9,500,000円
デリバリー開始時期	－



ニューモデル	メルセデス・ベンツ Eクラス クーペ
発表・発売日	2017年5月31日 発売
概要	・ 同社の最新デザインを取り入れた流麗でスポーティなエクステリア ・ ボディサイズの拡大により、後席の居住性が向上 ・ さらに進化したインテリジェントドライブ
車両価格(税込)	E 200 クーペ： 6,820,000円 E 200 クーペ スポーツ： 7,500,000円 E 300 クーペ スポーツ： 8,350,000円 E 400 4MATIC クーペ スポーツ： 10,370,000円
デリバリー開始時期	－



ニューモデル	メルセデス AMG E63 S 4MATIC+
発表・発売日	2017年5月31日 発売
概要	・ スポーツカーのメルセデス AMG GT譲りの4.0L V8ツインターボエンジンを搭載 ・ 前後トルク配分を0:100にして後輪駆動の走りが楽しめる「ドリフトモード」を搭載 ・ Aピラーより前方を専用デザインとしたエクステリア
車両価格(税込)	メルセデス AMG E63 S 4MATIC+： 17,740,000円
デリバリー開始時期	－



仕様追加	メルセデス AMG G63 (右ハンドル仕様)
発表・発売日	2017年6月7日 発売
概要	・ メルセデス AMG G63に右ハンドル車を新設定 ・ 2001年にMBJがAMGモデルを販売して以来、GクラスのAMGモデルとしては初となる右ハンドル車 ・ 車両価格は左ハンドル車と共通
車両価格(税込)	メルセデス AMG G 63： 19,710,000円
デリバリー開始時期	－

MOTORSPORT

ブランパンGTシリーズ第7戦(耐久カップ)がフランスのポール・リカルサーキットで6月23日～24日にかけて行われ、ベントレー・チームMスポーツのコンチネンタルGT3の8号車(Soucek/Soulet/Abril組)が、1000kmレースを制しました。チームMスポーツにとっては同シリーズ今季初勝利で、耐久カップでの優勝は2014年以来となります。

予選終了時点では8番手でしたが、スタート後間もなくトップに躍り出ると、そのままレースをリード。速いラップタイムで周回を重ね、車両には信頼性があり、ピットストップ作戦もうまくいったことから、ベントレーのモータースポーツ責任者であるブライアン・ガッシュが「完璧なレース」と表現したほどすべてがうまくいきました。ガッシュはまた、「レースでの勝利はいつでも嬉しいものですが、これほどきれいな勝利というのは何物にも代えがたいです」とコメントしています。

この勝利により、チームMスポーツには33ポイントが加わったことで、チームとしては2位に浮上。1位との差は12ポイントまで縮まりました。次戦はシリーズで最も重要とされる耐久カップのスパ24時間レース(ベルギー、スパ・フランコルシャン、7月29日～30日)です。チームMスポーツへの熱いご声援、よろしくお願いします！



アメリカでも優勝したコンチネンタルGT3

米国内で行われているピレリワールドチャレンジが6月23日～25日に開催され、ベントレー・チーム・アブソリュートのコンチネンタルGT3がGT第4戦で優勝しました。ドライバーは昨年GTアジアで岡山と富士でも快走したアダレイ・フォン選手(写真)です。「ついに優勝できて最高です。これまで最高の仕事をしてくてくれたチームのスタッフに恩返しができました。」などとコメントしています。





# Mullinerの新作が続々と登場

ベントレーのビスポーク部門を担うMullinerから、新作が続々と発表されています。

日本への導入など詳細については未定のものもありますが、お客様からビスポークの依頼があった場合の参考などのため、最新の情報を掲載します。

## » EXTERIOR

フライングスパー デザインシリーズ by Mullinerの外観を特徴づけているのは、フロントバンパーの大胆なデザイン（V8 SとW12 Sモデルのみ）、ボディ下部を通るライン、LEDウェルカムランプです。フロントバンパーおよびドアからリアにかけて通る下部のラインは、印象的な色のアクセントで強調されています。ウェルカムランプが採用されており、夜間には「Mulliner」の文字を地面に投影します。W12 Sでは、ヘッドランプ周囲とフロントグリルがダークティント化されていることから、よりドラマチックな外観になっています。21インチディレクショナルスポーツアロイホイールはグロスブラックで仕上げられ、見た目にもW12 Sのエンジンパワーを強調しています。



## フライングスパー デザインシリーズ by Mulliner

## » INTERIOR

インテリアはMullinerが手作業で仕上げたユニークでラグジュアリーな空間となっています。レザーシートはメインハイドに開けられた穴から下のセカンダリーハイドが見えるようになっており、フライングスパーの限定車で作用されるアクセントを反映しています。また、ステアリングホイールは12時の位置にトップマーカークが施されているほか、シートボルスターとドアトリムのハイドは、Mullinerらしいダイヤモンドキルト仕上げとなっています。

そして新たなビスポークのカラースプリットとして、トップロールとウェストレールトップに3色を設定しました。センターコンソールはピアノブラック仕上げです。



## » EXTERIOR

エクステリアは現代風のヨットをイメージしました。ボディカラーはGlacier Whiteで、ボディ下部のラインにSequin Blue、ソフトトップにダークブルーを採用しています。



## コンチネンタルGT V8 コンバーチブル Galene Edition by Mulliner

Galeneとはギリシャ神話に登場する「穏やかな海」の女神のこと。このクルマは、Mullinerのデザイナーと英国の高級ヨットメーカーであるプリンセスヨット社とのコラボレーションによって生み出されました。そのためGalene Edition by Mullinerには、ヨットからインスピレーションを得たモチーフが随所に配されています。

## » INTERIOR

メインハイドにLinenとBrunelを、セカンダリーハイドにはPortlandとCamelをアクセントとして採用しました。「ヨット」というテーマを強調するため、センターコンソールにはウォルナットのウッドパネルをビンストライプ状に配しました。これはクロックベゼルとトランクルームのフロアにも採用しており、ヨットのデッキを表現しています。



もとは4月に発表されたベンティガ Mullinerの標準装備の1つだったコンソールボトルクーラー。非常に人気があったことから、コンソールボトルクーラーを単独のMullinerオプションとして販売することを決定しました。

このエレガントなオプションは、左右のリアシートの間にあるリアセンターコンソールに完璧に統合されたドリンククーラーです。主な機能は、イルミネーション付クーラーキャビネット（ボトル1本収納、曇りガラス、ソフトクローズドア）、独立式ボトルクーラーリングです。付属のシャンパングラスは、英国の由緒あるクリスタルガラス製品メーカーであるカンブリアクリスタルにより、ハンドメイドで仕上げられたものです。

## Mulliner コンソールボトルクーラー for ベンティガ





REVIEW

# グッドウッドでコンチネンタル Supersports などが疾走！

英国グッドウッドで6月29日～7月2日にかけて、グッドウッド フェスティバル オブ スピード (FOS) が開催されました。今年のテーマは「Peaks of Performance (パフォーマンスの頂点)」で、コンチネンタル Supersports のコンセプトに完璧に一致するものでした。

そのコンチネンタル Supersports は、ル・マン優勝経験もある英国の伝説的ドライバーである Derek Bell のドライブにより、グッドウッド FOS 名物のヒルクライムに出走。また、コンチネンタル GT3 レースカーも出走し、ブランパン GT シリーズに参戦している Andy Soucek がドライブ。新旧 ベントレー・ボーイズの共演で多くの観客を魅了しました。

ベントレーブースでは、コンチネンタル Supersports に加え、ミュルザンヌ EWB、ベンテイガ ディーゼル、フライングスパー V8 S といった最新モデルなどを展示。このほか、ベントレー草創期に輝かしい活躍を見せた Speed 8 プロトタイプ レースカーの展示や、クルー工場の職人によるデモンストレーションなども行われました。

さらに、Project Car 2 ゲームがシミュレーターで登場し、9月の正式なリリースを前に、ベントレーが招待したお客様にプレーしていただきました。



LATEST NEWS

## ブラックスペックをベンテイガに導入

ベントレー モーターズ ジャパンはこのほど、ベンテイガにブラックスペックを正式に導入し、オーダーの受付を開始しました。ブラックスペックはベンテイガの外観をドラマチックに変更するパッケージオプションで、希望小売価格は3,537,100円（消費税込）です。

ブラックスペックには、以下が含まれています。

- 22インチ5スポークディレクショナルアロイホイール（ブラックペイント）
- グロスブラックペイント エグゾーストテールパイプ
- ベンテイガ ブラックラインスペック\*
- ベンテイガ スタイリングスペック（ブラック）



※ ブラックラインスペックは、以下のボディブライトパーツがブラックペイントに変更されます。  
サイドウィンドウサ라운드、ウィングペント、ロワードアのブライトウェア、リアバンパーのブライトウェア、フロントヘッドランプベゼル、ラジエターマトリックス（サ라운드+センターバー）、ドアハンドル、リアバンパープレートサ라운드、リアランプベゼル

CULTURE

## 英国の象徴「ビッグ・ベン」の由来は？

ウェストミンスター宮殿（英国国会議事堂）の時計塔は、英国人のみならず世界中の人が知っているロンドンのシンボルの1つです。この時計塔の大時鐘の愛称こそ「ビッグ・ベン」。現在では大時鐘のみならず、大時計または時計塔全体を指す愛称としてすっかり定着しています。ベントレーではフライングスパー V8 が登場した際のプレス用イメージ画像として、ビッグ・ベンを背景に走る車両の写真も用意されました。

この時計塔は1843年に着工し、1859年に竣工しました。高さは96.3mで、階数にすると11階建てに相当します。初めて鐘が鳴らされたのは1859年の7月11日という記録が残っているほか、日本の学校で使用されるチャイムのメロディは、ビッグ・ベンが奏でるメロディを基にした、とされています。

時計塔の正式名称は「クロック・タワー」でしたが、エリザベス女王の在位60周年を記念し、2012年に「エリザベス・タワー」に改称されました。

ちなみに「ビッグ・ベン」という名称は、工事責任者で国會議員だったベンジャミン・ホール卿が大柄だったことにちなんで付けられた、とする説が有力とされています。他にもボクシングのヘビー級チャンピオンの名前をとったという説など複数の説があり、今でも議論的になっているようです。



©VisitBritain / Britain on View





# 熱反射ガラス

真夏の炎天下にクルマを停めておくと、わずか1時間ほどで車内温度は50℃を超え、ダッシュボードの温度は80℃近くまで上昇と言われています。ベントレーでは、その対策の一環としてフロントウィンドウに「熱反射ガラス」と呼ばれる特殊なガラスを使用しています。今回の基礎知識では、この「熱反射ガラス」について理解を深めておきましょう。



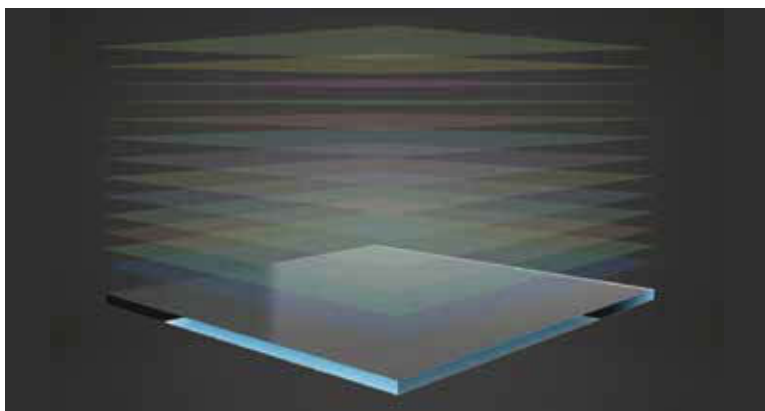
## 熱反射ガラスとは

クルマのフロントウィンドウには、飛び石などがヒットして万が一ひびが入った際に一気に飛散しないよう、薄い樹脂フィルムを2枚のガラスでサンドした、いわゆる「合わせガラス」が使われています。そのフィルムに特殊な素材を練り込んだり、フィルムとガラスの間に特殊な層を追加したり、あるいはガラスそのものの生成時に特殊素材を配合することで、太陽光線を反射あるいは吸収する性質を持たせたのが熱反射ガラスです。放射熱を遮るという意味で世界一般的には「Low - E ガラス」と呼ばれています。紫外線を透過させないUVカットガラスは以前からさまざまな分野で実用化されていますが、熱反射ガラスは、紫外線に加えて熱の元となる赤外線（IR）もカットする機能が加えられています。

## COATTECT（コートテクト）

熱反射ガラスは国内外のさまざまなメーカーが開発し、自動車メーカーへのOEM供給はもちろん、交換用ガラスとしても広く市場に出回っています。そんな中でベントレーが導入しているのは中国・FUYAO社の製品。FUYAO社は20年以上に渡って世界の自動車メーカーにガラス部品を供給してきたブランドで、自動車用安全ガラスの分野で世界トップ5に入るビッグメーカーです。その技術水準の高さから、メルセデス・ベンツやBMW、フォルクスワーゲン、アウディ、プジョー、ボルボ、トヨタ、日産、スズキ、ヒュンダイなどなど、普及モデルから高級車まで世界中のメーカーが純正採用しています。

FUYAO社が開発した熱反射ガラス「COATTECT（コートテクト）」は、飛散防止フィルムに面するガラス内面に、吹き付け塗装によって6～13nm（ナノメートル）という極薄の金属多重層を定着させているのが特徴です。この層の働きによって、波長1.5～2.1μm（マイクロメートル）の近/中赤外線を中心に65%以上の赤外線を反射。紫外線も99%カットすることに成功しています。また、ガラス内面に処理しているため、その効力は半永久的に持続します。



FUYAO社のCOATTECTガラスは、独自の吹き付け塗装技術によって特性の異なる複数の金属をガラス面にごく薄く重ね合わせることに成功。その技術力は世界中の自動車メーカーから高い評価を得ています。

## 熱反射ガラスのメリットとデメリット

標準ガラスに対してFUYAO製COATTECTガラスをフロントウィンドウに採用した際のメリット、デメリットは以下のとおりです。（FUYAO社のデータによる）

### メリット

- 太陽光線による車内温度が平均して5～10℃低下する。
- 太陽光線によるハンドルの温度上昇が平均して10℃低下する。
- 冬場の暖房効率が向上する。
- エアコン負荷が減少することにより走行パフォーマンスが向上する。
- エアコン負荷が減少することにより年間平均燃費が3%向上する。
- 夜間の対向車のヘッドライトによる幻惑が低減する。
- 乗員の日焼けを防止する。
- ダッシュボードをはじめとする内装部品の劣化を抑える。



副次的なメリットとして、対向車のヘッドライトの眩しさも大幅に軽減されます。

### デメリット

COATTECTの金属層には電波を通しにくい性質があり、カーナビなどのGPS信号の受信やETCの通信に障害が出るケースがあるため、ガラス上部中央にコーティングしない部分を設けることでそれに対応しています。ベントレーのお客様にご自身、あるいは他の店舗でこれらの機器を装着されるケースは少ないと思われるかもしれませんが、その点はぜひご留意ください。